

3年間、ホスト兼講師をし続けてきてわかったコツ。講師をする方は、主催者の方に渡しておくで役立つと思います。ただし、Zoom の仕様変更等で変わることもある点、ご了承ください。

1) パーソナル・ミーティング ID は使わず、その都度、ID を発行する。待機室は別段不要

パーソナル・ミーティング ID (ルーム) は、アカウントに割り当てられている固定 ID。いつも使っていると、別の人が入ってくるリスクも。一方、ID をその都度、発行していれば、知らない人はまず入ってこないため、待機室も不要。

2) ホストはアカウントの「設定」で、「画面共有」をホスト、共同ホストのみ可にしておく

会議等で参加者全員がそれぞれ画面共有したい時は Zoom のコントロール・パネルで変える

こうしておけば、参加者が誤って「画面共有」ボタンを押してしまい、その人のパソコン画面がみんなに表示されるような事故は防げる。当初言われていた「Zoom 爆弾」も防げる。ホストや共同ホストが誤って別の画面を共有してしまったら、それは御愛嬌…。



会議等で、全員に画面共有を許可する時は、Zoom の操作画面で…



## 3) ID を発行する際、「入室時、参加者をミュートにする」をオンにする

## ID発行画面→

電話をしながら入室して、電話の内容が丸聞こえとか、「これ、ミュートになってる？」と悩んでいる声が聞こえとか、講師に向かってきわめて失礼なことを大声で言ってるのが聞こえとか…を予防できます。

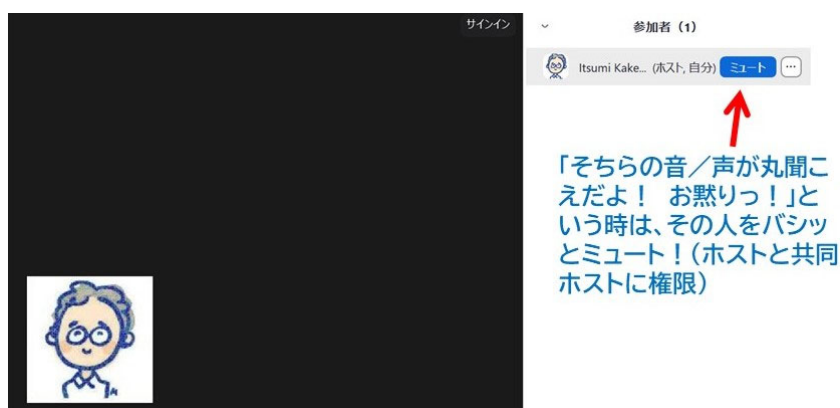
ミュートをわざわざ切る人は今でもおり、それはどうしようもありませんが。

## 4)せめて講師にだけは、ID、パスコードと一緒に直接リンクも送る

講師には直接リンク（URL）も送りましょう。いちいち ID とパスコードを入力するのは面倒。

## 5)部屋を開けてから:ミュートを切らないでいる人たちはホスト、共同ホストがミュートに

「ミュートにしてください!」と言っても、向こうでしゃべっている人たちは、自分の声が機械から聞こえていることに気づきません。ホスト、共同ホストがその人たちをミュートに。



## 6)部屋を開けてから:共同ホストを多く設定しておく利点

- ① ホストが落ちても、共同ホストの中でホストが委譲されるから安心。
- ② 他人をミュートにする権限（5）はホストと共同ホストにしかないので、講師に共同ホスト権限がないと、研修会中など、ホストが席を離れた間に参加者がミュートを切り、音や声を出しても、講師は対処できない。講師は絶対、共同ホストにしておく。

③ 挨拶している人や講師をミュートにしてしまう事故の予防。

参加者画面（右）をご覧ください。ホストと共同ホストが上で塊になり、中でもミュートを切っている人（マイクが黒）が上に来ます。その下にホスト以外の塊が来て、この中でもミュートを切っている人が一番上に来ます。共同ホストがいないと…。

参加者がミュートを切っていることに気づき、ホストがその人をミュートにしようとした。その同じ瞬間に参加者本人も自分で自分をミュートにした。すると！ その直上にいる人がミュートされてしまいます。それが挨拶している人や講師だったりすると、その人の声が聞こえなくなってしまうわけです。

右のように共同ホストを何台も設定しておく、話している人がホスト／共同ホスト群の中でも上にいくので、この事故を予防できます。（※）

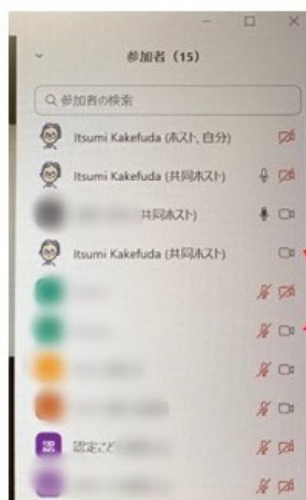


7)部屋を開けてから:ホスト、共同ホストは他人の名前を変更できる

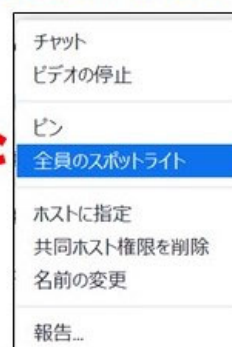
「名前を園名に変えてください」と言っても変えない人、変えられない人がいるので。

8)部屋を開けてから:挨拶や研修会では「全員のスポットライト」を使って！

Zoom は、ミュートが切れている人、中でも、今、声や音が出ている人の画像を表示します。講師が話している時に誰かがミュートを切らずに入ってきてしゃべっていると、その人が大写しされてしまうのです。これを防ぐためには、挨拶をしている人や講師を「全員のスポットライト」で固定しておきます。こうすれば、コロコロ画面が変わってしまって、スピーカービューで見ている人が苛立つ、ということがなくなります。



「全員のスポットライト」は、カメラをオンにしていないと選択できない



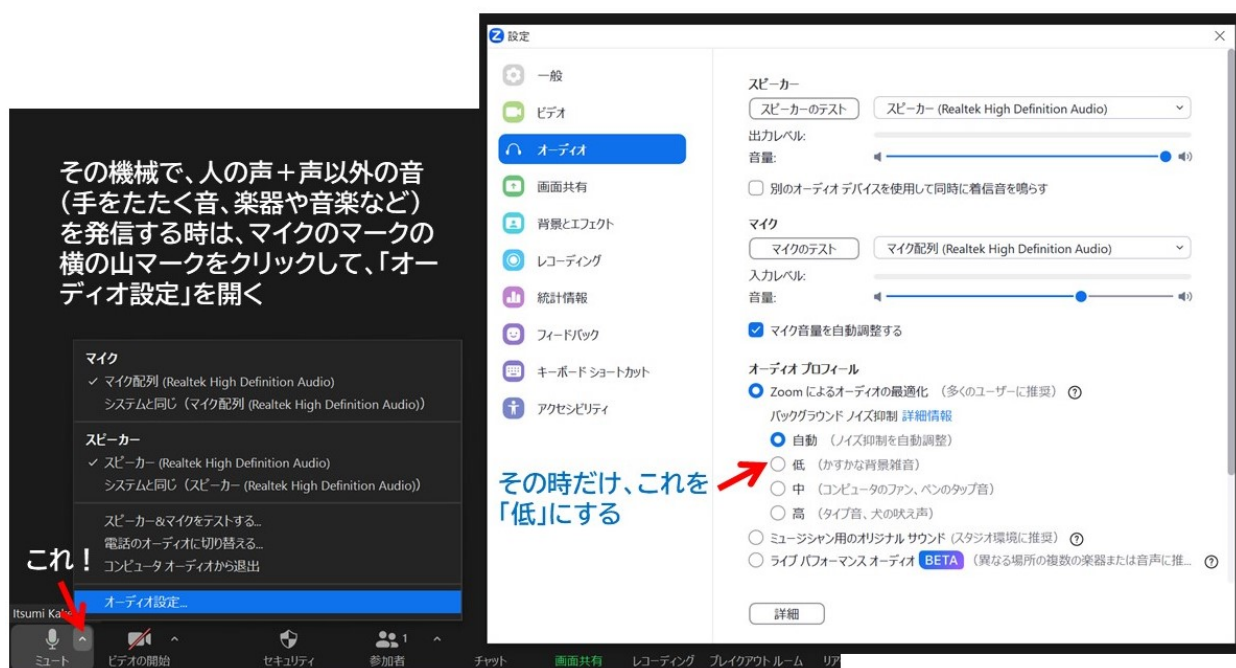
ただし、カメラをオンにしていない状態では、「全員のスポットライト」は選択できません。

★スポットライトは複数台に割り当てることができ、シンポジウム形式の時に役立ちます。救命講習では、デモンストレーションの正面像と横から見た像を並べて見せることもでき、非常に便利です（スマホでは横起きでも2画面両方を見ることはできないと思いますが）。

## 9)部屋を開けてから:人の声以外の音を出す時は、バックグラウンド・ノイズをその時だけ変更

Zoom は人の声以外の音をノイズとして切り捨てる（拾わない）ようになっています。結果、歌いながら手をたたいたり、メトロノームを使ったり、話しながら踊っている後ろで音楽を流したりすると、音はすべて消えてしまいます。場合によっては声も一緒に消えます。

そういった時は、Zoom の操作画面の「オーディオ設定」から、一時的に「バックグラウンドノイズ抑制」を「低」にします。ただし、このままにしておくと、話している背景にある音もすべて拾ってしまいますので、話すだけの状態に戻ったら、「自動」に戻すのがお勧め。



※この画面で私の機械が3台、表示されていますが、これは声を送るスマホ（マイクが黒）、自分の画像を送るタブレット（オーディオには接続しない）を分け、それぞれ別のWi-Fi回線で送信しているためです。これによって声も画像も一気に落ちることを防げる（音声はとてもしゃべり音、音声だけは守れる）。もう1台はまた別の弱めのWi-Fiでつないでいるパソコンで、参加者と同様の環境を再現したモニターにしています（マイクはミュート、画像も切っている）。